

令和2年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

源流と農業を守る ザ・ワンチーム★

- 団体名 ゆのはらしゅうらくきょうてい 湯原集落協定 (代表 やまだ 山田 ますひろ 益広)
- 所在地 みやぎけんかつたぐんしちかしゆくまち 宮城県刈田郡七ヶ宿町

○むらづくりの背景・経緯

七ヶ宿町は宮城県南西部、山形・福島両県境に位置する県内有数の豪雪地帯で、山林が9割以上を占める山間地域である。

湯原集落の主産業は農業であるが、世帯数の減少や高齢化が進み後継者も少なく、将来的な農地の維持管理と集落機能の維持が危惧されている状況であった。これらの課題に対応するため、湯原自治会の全面的な協力のもと、中山間地域等直接支払交付金の活動母体である湯原集落協定を中心に、集落の認定農業者、農業法人、多面的機能支払交付金活用した活動組織である湯原集落農業協力隊及び七ヶ宿町との連携体制により運営されている。

なお、活動に当たっては、中山間地域所得向上支援事業交付金や宮城県単独の集落体制づくり事業等の支援制度を活用しているほか、企業との連携や集落外の若手農業者を巻き込むなど、外部人材とも連携してむらづくりを推進している。

◆むらづくりの内容

(1) 農業生産面

担い手への農地集積を進めるため集落協定を締結し、また、集落内の非農家も参加して農業協力隊を立ち上げ、耕作放棄地の発生防止と多面的機能の維持、鳥獣被害防止対策に取り組み、平成12年以降作付面積約47haを維持している。

米づくりでは、「七ヶ宿源流米ネットワーク」が組織化され、土壌改良や水質浄化により、全国食味コンクールで金賞を受賞した良食味米を栽培している。また、そば栽培においては、播種時期の分散による気象リスクの回避や開花期間中の放蜂による結実率向上を図るなど、そばの栽培方法を工夫し多収量を実現している。



七ヶ宿源流米のパッケージ

(2) 生活・環境整備面

ボランティアによる鳥獣害防護柵設置や除排雪により、農地の維持・管理、生活環境を維持している。

集落協定では、来訪するボランティア等と集落住民との交流の場を積極的に作り出すとともに、地区の夏祭り等を通して非農家との交流にも取り組んでいる。

地元企業社員とその家族が湯原集落を訪問、七ヶ宿源流米ネットワークと共同で農作業体験を行うイベントが開催されている。

また、農業法人が町内そば屋とともに「新そばまつり」を開催し、毎年2,000人を超える人出で賑わっている。

女性は景観づくりや交流時における食事提供などに加え、女性中心の自治会組織や女性のみで構成された郷土芸能組織もあり、集落では多くの場で女性の活躍が発揮されている。



新そばまつりの様子